

1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2012/12/28	2013/7/31	2013/8/9	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	10,395.18	13,668.32	13,615.19	15,942.60	2013/5/23	8,135.79	2011/11/25
NYダウ	ドル	12,938.11	15,499.54	15,425.51	15,658.43	2013/8/2	9,936.62	2010/8/27
円/ドル	円	85.96	97.88	96.21	103.74	2013/5/22	75.35	2011/10/31

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り 円高ドル安が進んだことを受けて大幅下落。

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が▲850.97円(▲5.88%)、TOPIXが▲55.26ポイント(▲4.62%)と円高ドル安が進んだことを受けて大きく下落する展開となりました。業種別(東証33業種)にみると、ゴム製品、鋳業、精密機器などを上位に全業種が下落しました。週明け5日の日本株市場は、先々週末に発表された米国雇用統計が市場予想を下回ったことを受けて円高ドル安が進んだことなどから下落して始まった後、終日軟調な展開となりました。翌6日も、午前中、97円台まで円高ドル安が進んだことを受けて、日経平均は前日比200円以上下落する場面がみられました。ただし、午後に入ると、98円台半ばまで円が売られたことなどから自動車など輸出関連株中心に急反発し、14,400円台を回復して引けました。しかし7日は、前日、ハト派とみられていたシカゴ連銀のエバンズ総裁が9月のFOMC(米連邦公開市場委員会)でQE3(量的金融緩和第3弾)縮小を開始する可能性があるとの発言を行ったことをきっかけに再び円高ドル安が進行したため、大きく下落する展開となり、日経平均は前日比576.12円安の13,824.94円で引けました。その後週末にかけても、円高ドル安の動きが止まらない中、軟調な展開が続きました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	前回
8月12日	Mon	日本	GDP(国内総生産)(年率/季調済/前期比)	4-6月期 4.1%
			国内企業物価指数(前年比)	7月 1.2%
8月13日	Tue	日本	機械受注(前月比)	6月 10.5%
		米国	小売売上高(前月比)	7月 0.4%
8月14日	Wed	米国	PPPI(生産者物価指数)(除食品・エネルギー、前年比)	7月 1.7%
		欧州	ユーロ圏 GDP(国内総生産)(季調済/前期比)	4-6月期 -0.2%
8月15日	Thu	米国	ニューヨーク連銀製造業景気指数	8月 9.46
			フィラデルフィア連銀製造業景況指数	8月 19.8
			CPI(消費者物価指数)(除食品・エネルギー、前年比)	7月 1.6%
			鉱工業生産(前月比)	7月 0.3%
8月16日	Fri	米国	非農業部門労働生産性	4-6月期 0.5%
			住宅着工件数	7月 836千件
			ミシガン大学消費者信頼感指数	8月 85.1

決算発表予定 他	国	決算発表 : 8/13 電通、アイフル、ユーグレナ 8/14 東燃ゼネラル石油、グリー 8/16 ドン・キホーテ
	米国	決算発表 : 8/14 シスコシステムズ 8/15 ウォルマート・ストアーズ、アプライド・マテリアルズ

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し ~ 薄商いの中、先物主導でやや弱含みの荒い値動きを想定 ~

今週の日本株市場は、夏休みに入る投資家が多く薄商いが見込まれる中、日米欧の経済指標を睨みながら、先物主導で荒い値動きが続くと想定しています。ただ、4-6月期のGDP(国内総生産)が市場予想を大きく下回ったことに加え、本邦の金融機関が保有する米国債の利金や償還金の支払いが15日に控えていることから、今週は為替がドル安円高に振れ易いため、やや軟調に推移するとみています。経済指標では、米国で13日に発表される小売売上高、15日のニューヨーク連銀製造業景気指数及びフィラデルフィア連銀製造業景況指数、CPI、鉱工業生産、16日の住宅着工件数、ミシガン大学消費者信頼感指数、欧州では14日のユーロ圏GDP、日本では13日の機械受注が重要と考えています。